

解答

③

傍線部では「吁々哉(ああくかな)」と詠嘆形が用いられているが、筆者は何に詠嘆したのか。「異」の語に注目だ。「異」は、たんに「異なる」というだけでなく、「異才」「異能」などというように、「(他と異なるほど)素晴らしい・秀でている」の意で用いられる。本文において筆者は、二匹の子猫が老猫になつく様子を見て、「ああ、なんと素晴らしいことか」と感嘆の言葉をもらしているのである。では、筆者はなぜ素晴らしいと思ったのか。二匹の子猫は譲られてきた当初、老猫には無関心で懐いていなかった(漠然不相能也)。しかし、老猫がうぶ毛を舐めてあげたり食事を分けてあげたり面倒をみているうちに、ついに老猫の乳を飲むまでにいった(遂承其乳)。

それ以来、二匹の子猫は老猫を本当の母親のように思い(以為良己之母)、老猫も二匹の子猫を自分が産んだ子のように思った(以為良己出)。このように、**血のつながった親子ではないのに、本当の親子のような愛情で結ばれた老猫と二匹の子猫の関係を、筆者は素晴らしい(異)と感じたのである。**傍線部では「吁々哉(ああくかな)」と詠嘆形が用いられているが、筆者は何に詠嘆したのか。「異」の語に注目しよう。「異」は、たんに「異なる」というだけでなく、「異才」「異能」などというように、「(他と異なるほど)素晴らしい・秀でている」の意で用いられる。本文において筆者は、二匹の子猫が老猫になつく様子を見て、「ああ、なんと素晴らしいことか」と感嘆の言葉をもたらしているのである。

以上の内容を踏まえて選択肢を見ると、「初めは『漠然』としていた子猫たち」「ついに『欣然』と老猫のことを慕うようになった」とある3が正解と判定できる。

1は「子猫たちと出会った時は『嗚嗚然』としていた老猫」、2は「親子であることを忘れていた」「本来の関係をとりもどした」が誤り。4は「深い悲しみを乗り越えることができた」、5は「深い悲しみを隠しきれずにいる」とする内容が本文からは読み取れない。

選択肢チエック

詠嘆 すばらしい

問4 傍線部A「吁、亦**異哉**」とあるが、筆者がそのように述べる

理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 子猫たちと出会った時は「嗚嗚然」としていた老猫が、「欣然」と子猫たちと戯れる姿を見せるようになったため。

② 互いに「漠然」として親子であることを忘れていた猫たちが、最後には「居然」と本来の関係をとりもどしたため。

③ 老猫と出会った初めは「漠然」としていた子猫たちが、ついには「欣然」と老猫のことを慕うようになったため。

④ 子猫たちが「居然」として老猫になつき、老猫も「嗚嗚然」たる深い悲しみを乗り越えることができたため。

⑤ 子猫たちが「欣然」と戯れる一方で、老猫は「居然」たるさまを装いながらも深い悲しみを隠しきれずにいるため。

「深い悲しみが本文にナシ」

書き下し文

家に一老狸奴を蓄ふ。将に子を誕まんとす。一女童誤りて之に触れ、而して墮す。日夕嗚嗚然たり。会両小狸奴を餽る者有り。其の始め、蓋し漠然として相ひ能くせざるなり。老狸奴なる者、従ひて之を撫し、傍徨焉たり、躑躅焉たり。臥すれば則ち之を擁し、行けば則ち之を翊く。其の舐を舐めて之に食を譲る。兩小狸奴なる者も、亦た久しくして相ひ忘るるなり。稍く之に即き、遂に其の乳を承く。是れより欣然として以て良に己の母なりと為す。老狸奴なる者も、亦た居然として以て良に己が出だすと為すなり。吁、亦た異なる哉。

現代語訳

家で一匹の老いた猫を飼っていた。今にも子を産もうとしていたその時、一人の女童が誤って猫に触れ、墮胎してしまった。老猫は昼夜を問わず嘆き悲しんで鳴いていた。そうしていたところ、ちょうど二匹の子猫を譲ってくれた者がいた。始めのうちは、思うに、子猫は無関心な様子で懐かなかった。一方で、老猫はそばに寄り添って撫で、うろろしたり足踏みしたりと、落ち着かないようだった。子猫が寝ているときは抱きかかえ、どこかへ行くときは守り立てていた。子猫のうぶ毛を舐め、食べ物も譲ってやった。二匹の子猫もまた時がたつとともに産みの母のことを思い出さなくなった。ようやく老猫に懐き、ついに乳を飲むに至った。それ以来、子猫は喜んで老猫のことを本当の母のように思った。老猫もまた安らかな様子で本当に自分が産んだ子のように思った。ああ、なんと素晴らしいことか。

重要語句

- 将 再読文字で「まさに〜(せ)んとす」と訓む。「今にも〜しようとする」の意。
- 会 副詞で「たまたま」と訓む。「偶然」の意。
- 蓋 副詞で「けだし」と訓む。「思うに」の意。
- 自 下に名詞がくる場合、返読文字として「〜より」と訓む。時間や場所の起点を表す助詞の働きをする。
- 也 本文では置き字として用いられている。よって、訓まない。